

# スーパーマーケット販売統計調査資料

2018年4月実績 速報版(パネル270)

3月実績 確報版(パネル270)

2017年度実績 確報版

(2018年5月22日公表)

## 調査資料概要

### 【パネル270社集計】

食品を中心に扱うスーパーマーケットを対象に同一企業を集計

※2016年4月実績よりパネル対象企業変更(275社→270社)

### 【集計項目】

商品分類別・エリア別・保有店舗別集計

集計企業数、総店舗数、総売場面積、店舗平均月商、売場1㎡あたり売上高

### 【速報版・確報版】

速報版:毎月21日前後に前月販売実績を速報値として公表

確報版:速報値に精度の高い集計を行い確報値として公表

### 【全店・既存店】

全店:前年同月全営業店舗と当月全営業店舗の比較

既存店:前年同月、当月共に営業の店舗による比較

### 【商品分類】

総売上高	食品合計	生鮮3部門	青果	野菜類、果実類、花
			水産	魚介類、塩干物
			畜産	食肉類、肉加工品
		惣菜	惣菜、折詰料理、揚物、弁当、おにぎり、寿司、インスタアベーカーリー、ファーストフード	
	日配	豆腐、こんにゃく、納豆、練製品、佃煮、漬物、パン、卵、乳製品、生菓子、冷凍食品、アイスクリーム		
	一般食品	調味料、瓶缶詰、乾物、米、小麦粉、乾麺、嗜好品、菓子、酒類		
	非食品	日用雑貨品、医薬・化粧品、家具インテリア、家電製品、婦人衣料、紳士衣料、文具、玩具		
その他	テナント売上高、タバコ・ギフト販売、その他取次業(DPE、クリーニング、宅配便、レンタル、チケット販売等)			

### 【地方分類】

北海道・東北地方	北海道、青森、岩手、秋田、宮城、山形、福島
関東地方	茨城、栃木、群馬、埼玉、千葉、東京、神奈川
中部地方	新潟、富山、石川、福井、山梨、長野、岐阜、静岡、愛知
近畿地方	三重、滋賀、奈良、和歌山、京都、大阪、兵庫
中国・四国地方	岡山、広島、鳥取、島根、山口、香川、徳島、愛媛、高知
九州・沖縄地方	福岡、佐賀、長崎、大分、熊本、宮崎、鹿児島、沖縄

※2014年4月実績よりエリア区分を8地方区分による6地方に変更

一般社団法人 日本スーパーマーケット協会

オール日本スーパーマーケット協会

一般社団法人 新日本スーパーマーケット協会

スーパーマーケット販売統計調査に関するお問い合わせ

tokei@super.or.jp

2018年5月22日

一般社団法人 日本スーパーマーケット協会  
 オール日本スーパーマーケット協会  
 一般社団法人 新日本スーパーマーケット協会

スーパーマーケット販売統計調査  
 2018年4月実績 速報版 (パネル270)

	全店売上高 (万円)	構成比	前年同月比 (全店)	前年同月比 (既存店)
総売上高	87,326,962	100.0%	99.7%	98.6%
食品合計	78,668,832	90.1%	99.9%	98.7%
生鮮3部門合計	29,506,095	33.8%	99.2%	97.9%
青果	11,956,827	13.7%	98.3%	97.0%
水産	7,500,189	8.6%	97.3%	96.1%
畜産	10,049,079	11.5%	101.8%	100.4%
惣菜	8,983,186	10.3%	101.6%	99.6%
日配	16,949,188	19.4%	100.3%	99.4%
一般食品	23,230,364	26.6%	99.9%	98.8%
非食品	6,288,841	7.2%	98.6%	98.4%
その他	2,369,337	2.7%	97.7%	98.2%

## 地方分類別集計

エリア	全店売上高 (万円)	集計対象企業数	前年同月比 (全店)	前年同月比 (既存店)
北海道・東北地方	12,119,279	43	99.7%	98.1%
関東地方	32,190,408	73	99.8%	98.8%
中部地方	10,710,077	53	99.7%	98.6%
近畿地方	18,805,399	44	99.8%	99.2%
中国・四国地方	8,688,269	34	99.2%	97.2%
九州・沖縄地方	4,813,531	23	98.7%	98.2%

## 保有店舗数別集計

保有店舗数	全店売上高 (万円)	集計対象企業数	前年同月比 (全店)	前年同月比 (既存店)
1~3店舗	635,988	44	94.5%	95.2%
4~10店舗	3,796,764	73	98.8%	97.2%
11~25店舗	10,066,291	64	98.4%	97.3%
26~50店舗	15,486,492	45	98.2%	97.3%
51店舗以上	57,341,427	44	100.3%	99.3%
集計企業数 (社)	270	既存店総売上高 (万円)	85,031,921	
総店舗数 (店舗)	7,908	店舗平均月商 (万円)	11,043	
総売場面積 (㎡)	13,133,826	売場1㎡あたり売上高 (万円)	6.6	

※売上高は税抜金額

※売上高は千円以下、構成比・前年同月比は小数点第2位以下四捨五入

2018年5月22日

一般社団法人 日本スーパーマーケット協会  
 オール日本スーパーマーケット協会  
 一般社団法人 新日本スーパーマーケット協会

スーパーマーケット販売統計調査  
 2018年3月実績 確報版 (パネル270)

	全店売上高 (万円)	構成比	前年同月比 (全店)	前年同月比 (既存店)
総売上高	87,858,087	100.0%	101.0%	99.6%
食品合計	79,393,834	90.4%	101.6%	100.0%
生鮮3部門合計	30,346,781	34.5%	102.0%	100.4%
青果	12,788,672	14.6%	104.5%	103.0%
水産	7,696,876	8.8%	97.9%	96.4%
畜産	9,861,233	11.2%	102.1%	100.4%
惣菜	9,051,272	10.3%	103.3%	100.9%
日配	16,822,130	19.1%	100.7%	99.5%
一般食品	23,173,651	26.4%	101.0%	99.3%
非食品	6,022,322	6.9%	97.1%	96.5%
その他	2,441,979	2.8%	95.2%	97.3%

## 地方分類別集計

エリア	全店売上高 (万円)	集計対象企業数	前年同月比 (全店)	前年同月比 (既存店)
北海道・東北地方	12,402,617	43	101.4%	99.9%
関東地方	32,694,527	73	101.5%	100.1%
中部地方	10,816,416	53	101.2%	99.9%
近畿地方	18,295,148	44	99.5%	98.7%
中国・四国地方	8,810,302	34	102.5%	99.1%
九州・沖縄地方	4,839,078	23	100.7%	99.9%

## 保有店舗数別集計

保有店舗数	全店売上高 (万円)	集計対象企業数	前年同月比 (全店)	前年同月比 (既存店)
1~3店舗	657,469	44	97.9%	97.9%
4~10店舗	3,949,954	74	100.6%	99.0%
11~25店舗	9,960,452	63	99.7%	98.6%
26~50店舗	15,803,254	45	100.5%	99.3%
51店舗以上	57,486,959	44	101.5%	100.0%
集計企業数 (社)	270	既存店総売上高 (万円)	85,609,633	
総店舗数 (店舗)	7,901	店舗平均月商 (万円)	11,120	
総売場面積 (㎡)	13,139,223	売場1㎡あたり売上高 (万円)	6.7	

※売上高は税抜金額

※売上高は千円以下、構成比・前年同月比は小数点第2位以下四捨五入

2018年5月22日

日本スーパーマーケット協会  
 オール日本スーパーマーケット協会  
 一般社団法人 新日本スーパーマーケット協会

## スーパーマーケット販売統計調査 2017年度実績（パネル270）確報版

	全店売上高（万円）	構成比	前年度比 （全店）	前年度比 （既存店）
総売上高	1,070,082,183	100.0%	101.3%	99.9%
食品合計	954,557,689	89.2%	101.6%	100.2%
生鮮3部門合計	364,024,211	34.0%	101.3%	99.7%
青果	148,083,804	13.8%	100.4%	99.0%
水産	92,768,186	8.7%	99.4%	97.8%
畜産	123,172,221	11.5%	104.0%	102.2%
惣菜	107,683,234	10.1%	102.5%	100.4%
日配	206,630,154	19.3%	101.6%	100.4%
一般食品	276,220,090	25.8%	101.7%	100.4%
非食品	80,336,565	7.5%	99.0%	98.7%
その他	35,187,930	3.3%	97.2%	97.7%

### エリア別集計

エリア	全店売上高（万円）	集計対象企業数	前年度比 （全店）	前年度比 （既存店）
北海道・東北地方	149,260,540	43	101.4%	100.0%
関東地方	394,163,643	73	101.9%	100.7%
中部地方	131,735,332	53	101.2%	99.4%
近畿地方	230,208,597	44	100.6%	99.6%
中国・四国地方	106,504,337	34	100.4%	98.3%
九州・沖縄地方	58,209,735	23	101.2%	100.1%

### 保有店舗数別集計

保有店舗数	全店売上高（万円）	集計対象企業数	前年度比 （全店）	前年度比 （既存店）
1～3店舗	9,106,343	47	98.2%	97.6%
4～10店舗	44,525,948	68	100.6%	99.0%
11～25店舗	120,559,803	65	100.6%	98.9%
26～50店舗	202,408,028	47	100.5%	99.2%
51店舗以上	693,482,061	43	101.7%	100.4%

※保有店舗数カテゴリーは2015年1月時点での保有店舗数による分類

集計企業数（社）	270	既存店総売上高（万円）	1,042,315,365
----------	-----	-------------	---------------

※売上高は税抜金額

※売上高は千円以下、構成比・前年同月比は小数点第2位以下四捨五入

## 2018年4月エリア別気候状況

### 1. 4月気温の特徴：東・西日本でかなり高く、北日本で高かった

上旬：東・西日本でかなり高く、北日本と沖縄・奄美で平年並だった。□

中旬：東・西日本で高く、北日本と沖縄・奄美は平年並だった。

下旬：北・東・西日本でかなり高く、沖縄・奄美で平年並だった。□

2017年4月との比較：上旬は北日本を除いてやや高く、下旬は前年に比べ全国的にかなり高くなった

	平年との比較 (°C)						今年と前年との差 (°C)		
	2018年4月			2017年4月 (前年)			上旬	中旬	下旬
	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬			
北海道地方	-0.1	1.2	2.4	1.5	1.1	-0.4	-1.6	0.1	2.8
東北地方	0.5	1.3	2.9	1.1	1.3	-0.1	-0.6	0.0	3.0
関東甲信地方	3.1	1.7	3.3	0.5	1.3	-0.5	2.6	0.4	3.8
北陸地方	1.4	0.7	2.6	1.2	1.1	0.3	0.2	-0.4	2.3
東海地方	2.2	1.3	2.6	0.5	0.8	-0.5	1.7	0.5	3.1
近畿地方	2.1	1.4	2.1	1.3	1.3	-0.2	0.8	0.1	2.3
中国地方	1.8	1.1	1.6	1.5	1.7	0.5	0.3	-0.6	1.1
四国地方	1.9	1.5	1.6	1.0	1.7	-0.1	0.9	-0.2	1.7
九州北部	2.3	1.5	1.4	1.1	1.8	0.6	1.2	-0.3	0.8
九州南部・奄美地方	1.2	1.2	1.0	0.8	1.6	-0.3	0.4	-0.4	1.3

平年差

+2°C以上

+1°C以上

-2°C以上

-1°C以上

前年差

+2°C以上

+1°C以上

-2°C以上

-1°C以上

### 2. 4月日照時間の特徴：西日本太平洋側と沖縄・奄美でかなり多かった

上旬：北日本でかなり少なく、東日本日本海側で少なかった。一方、東日本太平洋側と西日本では多くなった

中旬：西日本で多く、北・東日本で平年並だった。一方、沖縄・奄美で少なかった。□

下旬：東・西日本で多く、北日本太平洋側で平年並だった。一方、北日本日本海側と沖縄・奄美では少なかった。□

2017年4月との比較：上旬は北日本を除いてやや多く、中旬以降前年並みからやや少なくなった

	日照時間 平年比 (%)						今年と前年との差 (%)		
	2018年4月			2017年4月 (前年)			上旬	中旬	下旬
	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬			
北海道地方	74	113	131	127	93	112	-53	20	19
東北地方	75	95	111	103	93	113	-28	2	-2
関東甲信地方	125	105	117	85	133	111	40	-28	6
北陸地方	90	101	111	92	92	136	-2	9	-25
東海地方	122	99	120	72	118	111	50	-19	9
近畿地方	113	113	115	81	103	125	32	10	-10
中国地方	101	112	112	83	107	137	18	5	-25
四国地方	128	123	113	75	114	113	53	9	0
九州北部	116	116	116	66	106	137	50	10	-21
九州南部・奄美地方	145	131	125	89	113	124	56	18	1

平年差

平年比150%以上

平年比125%~149%

平年比50%以下

平年比51%~75%

前年差

+50%以上

+25~49%

-50%以下

-25~49%

### 3. 4月降水量の特徴：東日本日本海側でかなり多かった

上旬：北日本太平洋側と東日本太平洋側、西日本で少なかった。一方、東日本日本海側では多く、北日本日本海側では平年並だった。□

中旬：東日本と沖縄・奄美で多く、北・西日本で平年並だった。□

下旬：東・西日本で多く、北日本太平洋側で平年並だった。一方、北日本日本海側と沖縄・奄美では少なかった。□

2017年4月との比較：上旬から中旬にかけては少なく、下旬は前年より多くなった

	降水量 平年比 (%)						今年と前年との差 (%)		
	2018年4月			2017年4月 (前年)			上旬	中旬	下旬
	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬			
北海道地方	51	122	26	38	181	68	13	-59	-42
東北地方	132	90	94	28	177	46	104	-87	48
関東甲信地方	17	113	133	69	192	22	-52	-79	111
北陸地方	153	143	150	85	140	84	68	3	66
東海地方	35	181	159	98	199	22	-63	-18	137
近畿地方	46	123	205	73	150	55	-27	-27	150
中国地方	63	51	203	52	175	61	11	-124	142
四国地方	23	57	144	140	134	97	-117	-77	47
九州北部	42	74	136	169	220	41	-127	-146	95
九州南部・奄美地方	23	106	50	217	111	52	-194	-5	-2

平年差

平年比150%以上

平年比125%~149%

平年比50%以下

平年比51%~75%

前年差

+50%以上

+25~49%

-50%以下

-25~49%

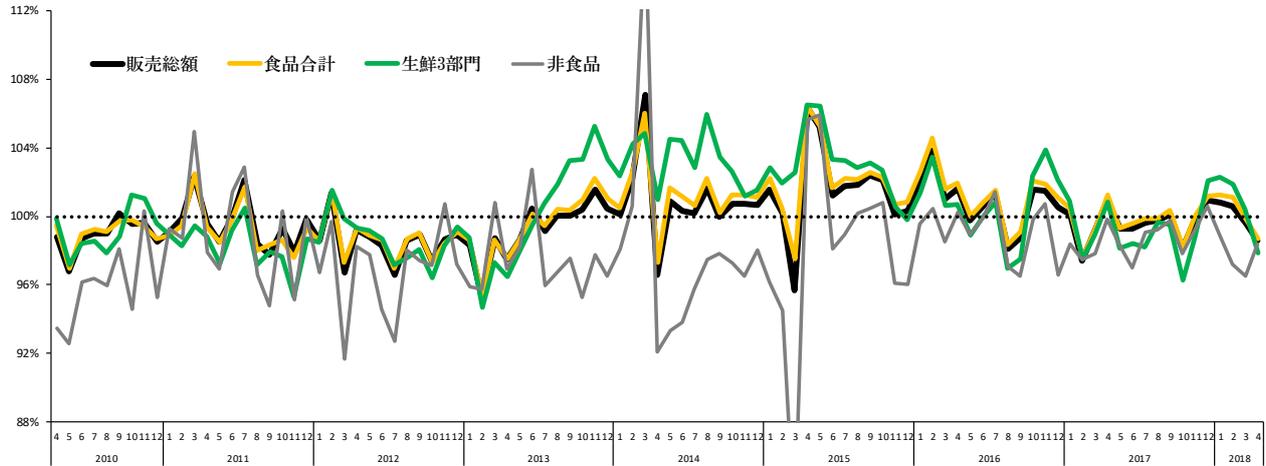
気象庁ホームページ・報道発表資料「4月の気候」参照

平年値は過去30年(1981年~2010年)の平均

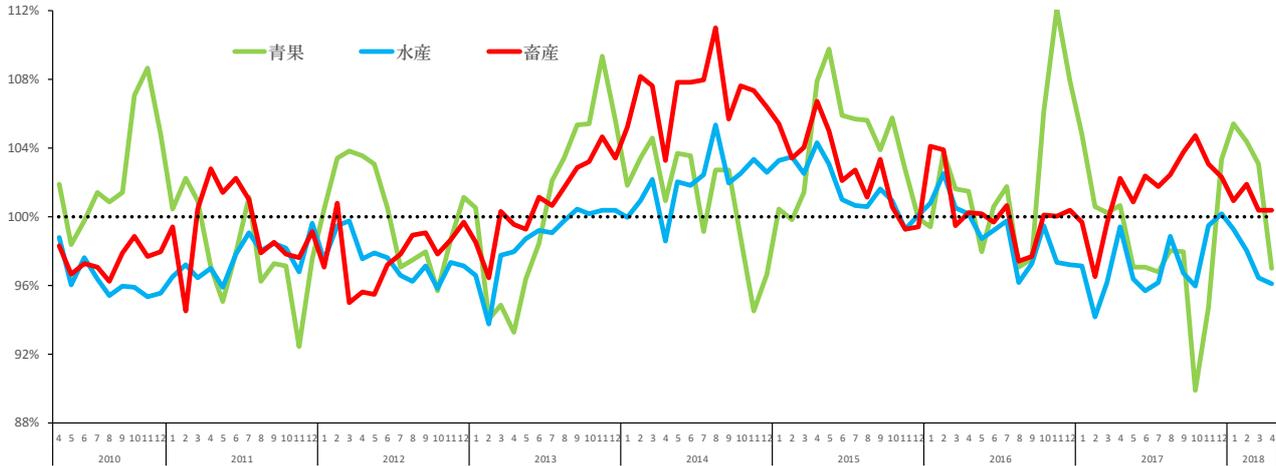
スーパーマーケット統計事務局作成

スーパーマーケット販売統計(パネル270) 既存店前年同月比推移 2010年4月～

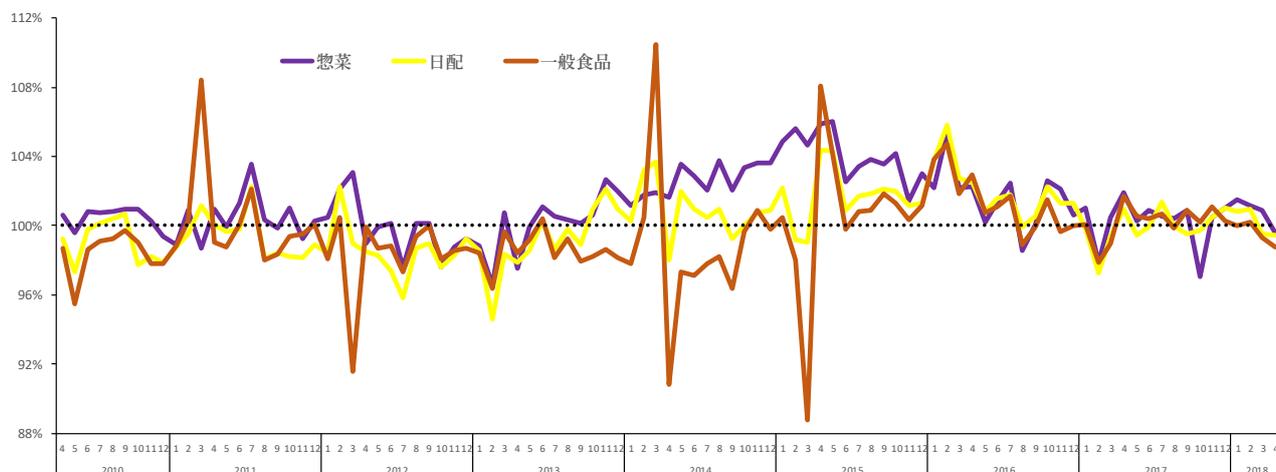
販売総額・食品合計・生鮮3部門・非食品



青果・水産・畜産



惣菜・日配・一般食品



※2010年4月～2018年3月までは確報版による前年同月比、2018年4月は速報版による前年同月比

# スーパーマーケット景気動向調査

2018年5月調査結果（4月実績）  
（2018年5月22日公表）

スーパーマーケット中核店舗を対象として経営動向や景気判断を調査し、月次でスーパーマーケット経営を取り巻く内外の環境変化を定量的に明らかにすることを目的としています。またスーパーマーケット販売統計調査における売上変動の要因やカテゴリー別好不調要因を補足する役割を果たすことも期待しています。

## 【経営動向調査】

1. 経営状況：「売上」「収益」「生鮮品仕入原価」「食品仕入原価」「販売価格」「客単価」「来客数」  
スーパーマーケット中核店舗における各経営状況について

- ・前年同月と比較し「かなり増加」から「かなり減少」までの5段階で評価
- ・前年同月を100とした当月の値を調査 ※2014年4月実績より

2. カテゴリー動向：「青果」「水産」「畜産」「惣菜」「日配」「一般食品」「非食品」  
スーパーマーケット中核店舗における各カテゴリーに販売動向について、

- ・前年同月と比較し「かなり好調」から「かなり不調」までの5段階で評価
- ・各カテゴリーの好不調要因についてのコメント

---

経営動向調査DI (Diffusion Index) の算出方法

回答構成比(%)に以下の点数を乗じてDIを算出

かなり改善+0.5・やや改善+0.25・変わらない±0・やや悪化-0.25・かなり悪化-0.5

※すべて企業が「変わらない」と回答した場合、DIは「0」

## 【景況感調査】

1. 景況感：「景気状況」「消費者購買意欲」「店舗周辺の競合状況」「店舗周辺地域の景気」について、

- ・2～3ヵ月前と比較した現状について「かなり改善」から「かなり悪化」まで5段階で評価
- ・今後2～3ヵ月の見通しについて「かなり改善」から「かなり悪化」までの5段階で評価

---

景況感DI (Diffusion Index) の算出方法

回答構成比(%)に以下の点数を乗じてDIを算出

かなり改善+1.0・やや改善+0.75・変わらない+0.5・やや悪化+0.25・かなり悪化+0

※すべて企業が「変わらない」と回答した場合、DIは「50」

一般社団法人 日本スーパーマーケット協会  
オール日本スーパーマーケット協会  
一般社団法人 新日本スーパーマーケット協会

## 5月調査（4月実績）結果概況

### 景気判断DIは現状・見通しともに一段の悪化

4月のスーパーマーケット中核店舗における景気判断DI 現状判断は前月から-1.7の43.3、見通し判断は前月から-1.8の41.5となり、どちらも一段の悪化となった。

経営動向調査では、売上高DIが-15.9、収益DIは-10.0と共に二桁のマイナスとなった。青果相場高騰が一服したことで生鮮仕入原価DI-1.3となったことで、販売価格DI-1.6、客単価DI-2.8といずれも前月プラス圏からマイナス圏にまで低下した。来客数DIも-16.7と二桁のマイナスが続いており、経営環境としては厳しい状況となっている。

カテゴリ動向調査では、相場高騰が一服した青果DIが-13.9、品不足や高騰が続く水産DIが-20.0と大きく低迷した。花見時期の前倒しの影響を受けた惣菜DIもマイナスとなり、すべてのカテゴリでDIがマイナスとなった。（カテゴリ動向については最終ページに詳細を掲載）

景況感調査は、店舗周辺地域景気動向DIのみが横ばいの推移となったものの、他のDIはすべて悪化するなど、スーパーマーケットにおけるマインドの悪化が顕著となっている。

競争環境が厳しさを増すなかで来客数の低迷が長期化しており、早急な対応が必要となっている。他業態の参入が続く食品市場では価格競争が激しさを増しているなか、生鮮カテゴリでの競争優位性の強化や消費者向けサービスによる差別化が経営環境改善に向け急務となっている。

#### 景況感調査

##### 現状判断

<b>景気判断DI</b> 当月： <b>43.3</b> (-1.7) 前月：45.0	<b>消費者購買意欲DI</b> 当月： <b>42.9</b> (-2.3) 前月：45.2	<b>周辺地域 競合状況DI</b> 当月： <b>39.5</b> (-2.4) 前月：41.9	<b>店舗周辺地域 景気判断DI</b> 当月： <b>46.4</b> (-0.4) 前月：46.8
----------------------------------------------------	-------------------------------------------------------	---------------------------------------------------------	-----------------------------------------------------------

##### 見通し判断

<b>景気判断DI</b> 当月： <b>41.5</b> (-1.8) 前月：43.3	<b>消費者購買意欲DI</b> 当月： <b>43.2</b> (-1.3) 前月：44.5	<b>周辺地域 競合状況DI</b> 当月： <b>37.8</b> (-2.0) 前月：39.8	<b>店舗周辺地域 景気判断DI</b> 当月： <b>46.2</b> (+0.1) 前月：46.1
----------------------------------------------------	-------------------------------------------------------	---------------------------------------------------------	-----------------------------------------------------------

#### 経営動向調査 経営状況

<b>売上高DI</b> 当月： <b>-15.9</b> (-7.1) 前月：-8.8	<b>客単価DI</b> 当月： <b>-2.8</b> (-6.2) 前月：3.4	<b>来客数DI</b> 当月： <b>-16.7</b> (-1.4) 前月：-15.3	
<b>収益DI</b> 当月： <b>-10.0</b> (-5.0) 前月：-5.0	<b>販売価格DI</b> 当月： <b>-1.6</b> (-4.5) 前月：2.9	<b>生鮮品仕入原価DI</b> 当月： <b>-1.3</b> (-6.8) 前月：5.5	<b>食品仕入原価DI</b> 当月： <b>2.9</b> (+0.7) 前月：2.2

#### カテゴリ動向

<b>青果DI</b> 当月： <b>-13.9</b> (-21.5) 前月：7.6	<b>水産DI</b> 当月： <b>-20.0</b> (-2.8) 前月：-17.2	<b>畜産DI</b> 当月： <b>-1.4</b> (-1.9) 前月：0.5	
<b>惣菜DI</b> 当月： <b>-4.1</b> (-5.3) 前月：1.2	<b>日配DI</b> 当月： <b>-7.2</b> (+0.3) 前月：-7.5	<b>一般食品DI</b> 当月： <b>-10.0</b> (+0.8) 前月：-10.8	<b>非食品DI</b> 当月： <b>-12.0</b> (-1.1) 前月：-10.9

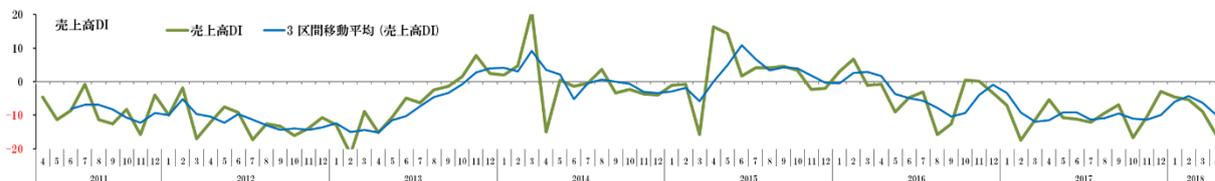
○ 内は前月DIとの増減、赤字はマイナス

## 5月調査（4月実績）結果詳細 I. 経営動向調査（2011年4月～）

### 1. 売上高DI

4ヵ月連続低下し、二桁マイナスを記録

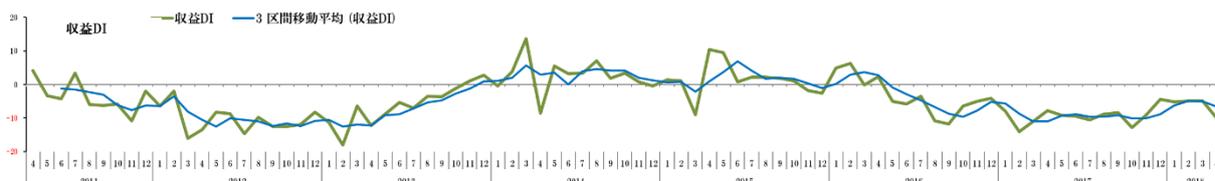
回答構成比 (%)	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
売上高 (前月)	10.9	36.8	30.3	20.4	1.5	-8.8
売上高 (当月)	12.9	50.5	24.2	11.9	0.5	-15.9



### 2. 収益DI

やや低下しマイナス幅広がる

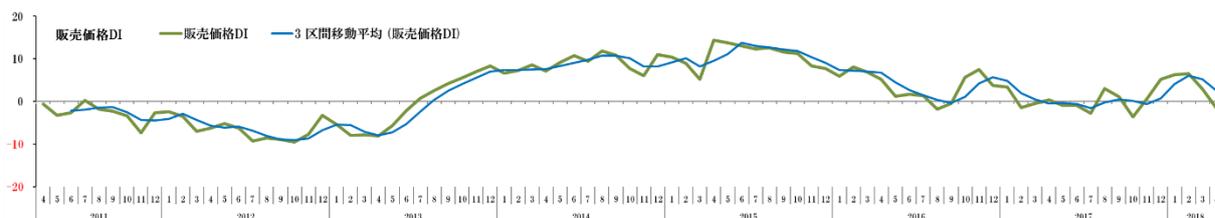
回答構成比 (%)	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
収益 (前月)	8.7	29.6	37.8	20.9	3.1	-5.0
収益 (当月)	8.9	43.8	28.6	16.1	2.6	-10.0



### 3. 販売価格DI

やや低下しマイナス圏に

回答構成比 (%)	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
販売価格 (前月)	0.0	12.5	64.0	23.0	0.5	2.9
販売価格 (当月)	0.5	19.3	66.7	13.0	0.5	-1.6



### 4. 客単価DI

やや低下しマイナス圏に

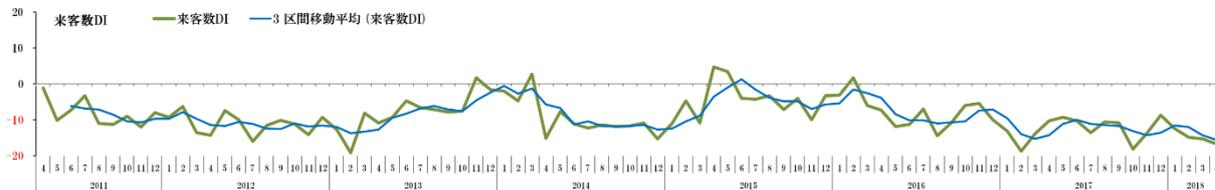
回答構成比 (%)	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
客単価 (前月)	2.0	16.9	47.3	33.3	0.5	3.4
客単価 (当月)	1.5	29.4	47.9	21.1	0.0	-2.8



## 5. 来客数 DI

二桁マイナス水準が継続し低迷

回答構成比 (%)	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
来客数 (前月)	11.5	49.0	29.5	9.0	1.0	-15.3
来客数 (当月)	<b>10.9</b>	<b>54.7</b>	<b>24.5</b>	<b>9.9</b>	<b>0.0</b>	<b>-16.7</b>



## 6. 生鮮仕入原価 DI

低下しマイナス圏に

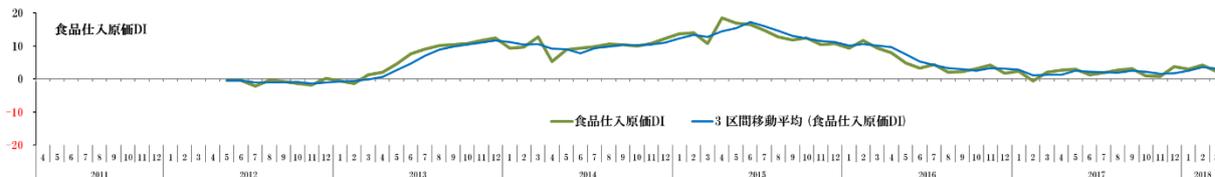
回答構成比 (%)	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
生鮮仕入原価 (前月)	2.6	11.2	49.5	35.2	1.5	5.5
生鮮仕入原価 (当月)	<b>3.7</b>	<b>20.2</b>	<b>54.3</b>	<b>21.3</b>	<b>0.5</b>	<b>-1.3</b>



## 7. 食品仕入原価 DI

わずかなプラスを維持し横ばいでの推移

回答構成比 (%)	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
食品仕入原価 (前月)	3.6	8.1	65.0	22.8	0.5	2.2
食品仕入原価 (当月)	<b>3.1</b>	<b>6.3</b>	<b>67.0</b>	<b>23.0</b>	<b>0.5</b>	<b>2.9</b>

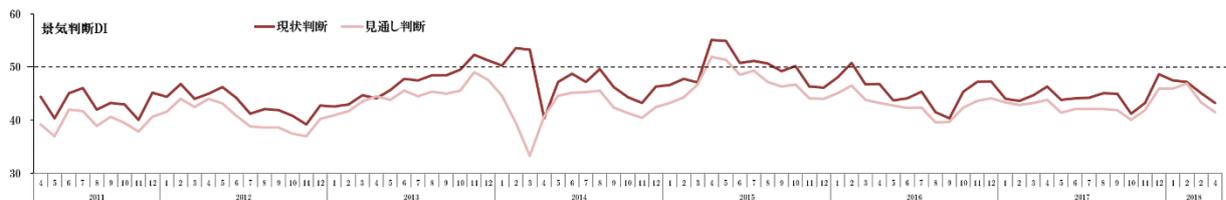


## II. 景況感調査 (2011年4月～/周辺地域景気判断のみ 2010年4月～)

### 1. 中核店舗景気判断 DI

現状判断、見通し判断共に一段悪化

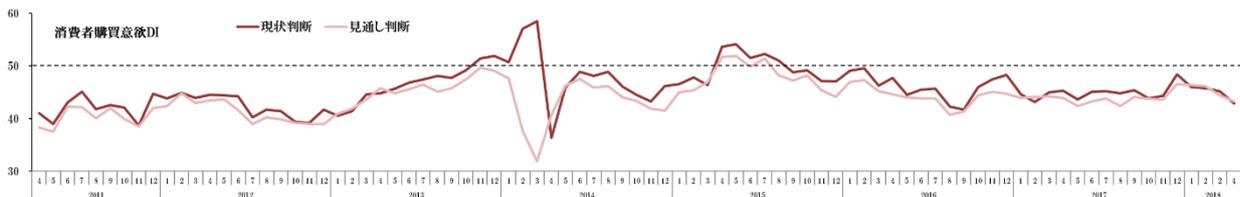
回答構成比 (%)	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【現状】景気判断 (前月)	1.5	24.8	65.8	7.9	0.0	45.0
【現状】景気判断 (当月)	0.5	32.1	61.1	6.2	0.0	43.3
回答構成比 (%)	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【見通し】景気判断 (前月)	2.0	28.6	63.5	5.9	0.0	43.3
【見通し】景気判断 (当月)	2.1	35.4	56.8	5.7	0.0	41.5



### 2. 消費者購買意欲 DI

現状判断、見通し判断共に一段悪化

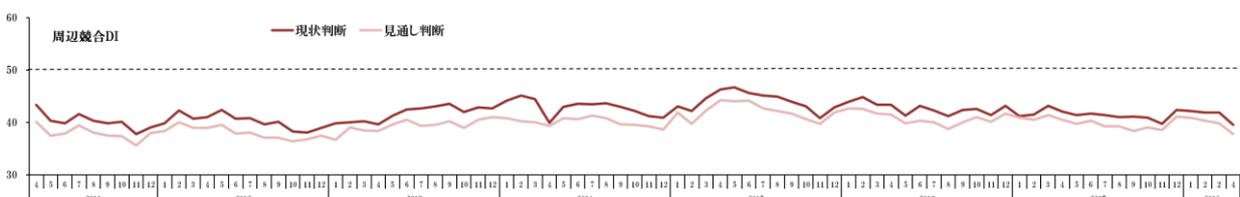
回答構成比 (%)	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【現状】購買意欲 (前月)	0.5	23.2	71.4	4.9	0.0	45.2
【現状】購買意欲 (当月)	0.5	31.1	64.8	3.6	0.0	42.9
回答構成比 (%)	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【見通し】購買意欲 (前月)	0.5	23.2	74.4	2.0	0.0	44.5
【見通し】購買意欲 (当月)	0.5	29.7	66.1	3.6	0.0	43.2



### 3. 中核店舗周辺競合状況 DI

現状判断、見通し判断共に一段悪化

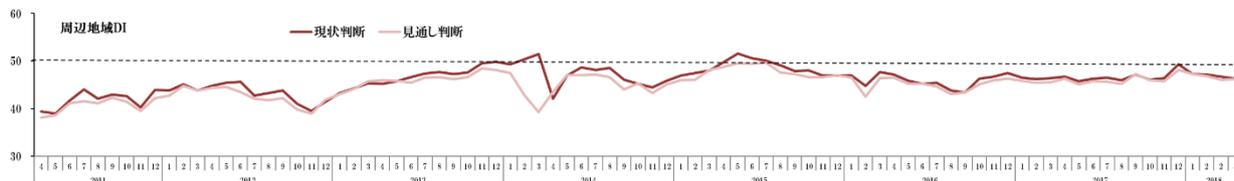
回答構成比 (%)	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【現状】競合状況 (前月)	3.4	28.1	66.0	2.5	0.0	41.9
【現状】競合状況 (当月)	4.7	33.7	60.6	1.0	0.0	39.5
回答構成比 (%)	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【見通し】競合状況 (前月)	3.9	34.5	60.1	1.5	0.0	39.8
【見通し】競合状況 (当月)	6.8	36.5	55.7	1.0	0.0	37.8



#### 4. 中核店舗周辺地域景気判断DI

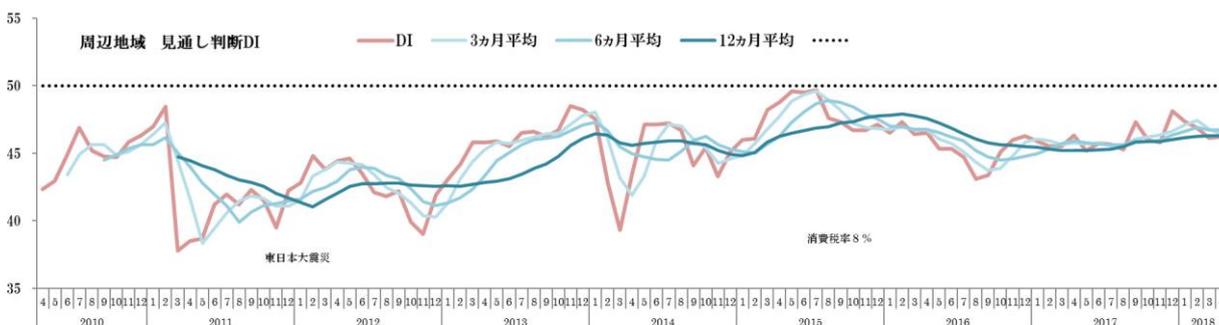
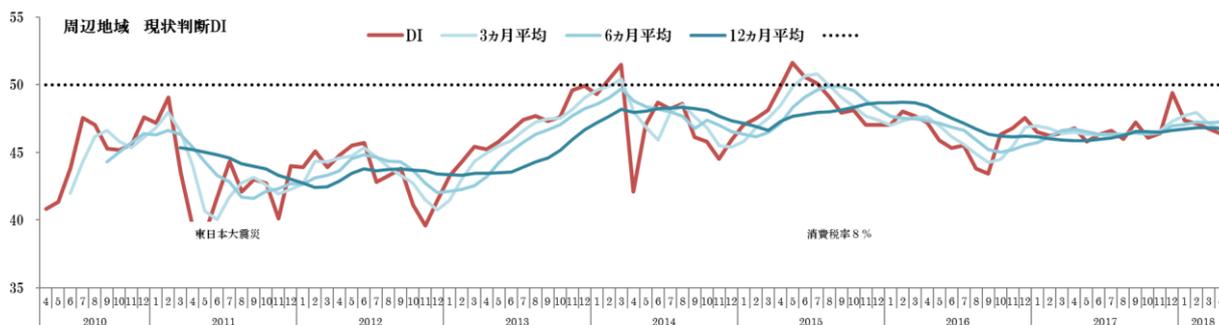
他の景況感とは異なる横ばいでの推移

回答構成比 (%)	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【現状】地域景気 (前月)	0.0	15.0	83.0	2.0	0.0	46.8
【現状】地域景気 (当月)	0.0	17.2	80.2	2.6	0.0	46.4
回答構成比 (%)	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【見通し】地域景気 (前月)	0.0	17.5	80.5	2.0	0.0	46.1
【見通し】地域景気 (当月)	0.0	18.3	78.5	3.1	0.0	46.2



#### ※長期傾向 (2010年4月～)

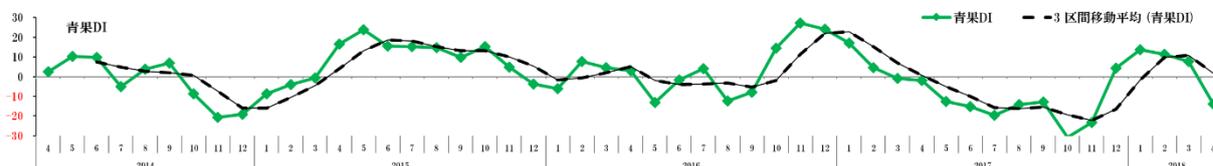
11年3月の東日本大震災後低迷を続けていたDIは、12年11月から16ヵ月にわたり改善が続き、14年3月には現状判断DIが51.5を記録した。14年4月の消費税率引き上げにより大きく悪化したものの、その後徐々に持ち直しをみせ、2015年5月には調査開始以来の最高値を更新し、現状判断DIは51.6にまで達した。しかしこれをピークとし、その後15ヵ月にわたり悪化傾向が続き16年9月には、現状判断DIは43.4まで低迷した。その後は、やや改善傾向はみられるものの、移動線付近で方向感のない動きが続いている。



### Ⅲ. カテゴリー別動向

#### 1. 青果DI：-13.9（不調）

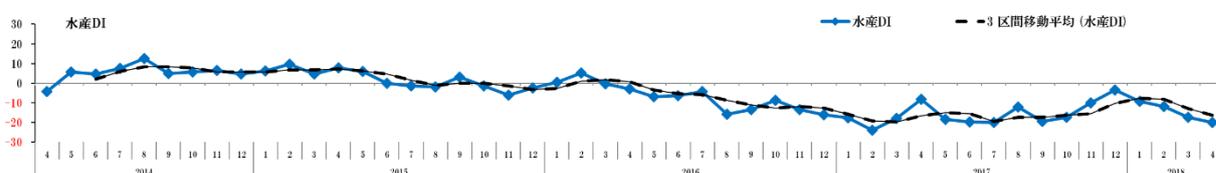
回答構成比 (%)	かなり不調	やや不調	変わらない	やや好調	かなり好調	DI
青果（前月）	5.8	15.2	31.4	38.2	9.4	7.6
<b>青果（当月）</b>	<b>15.7</b>	<b>42.2</b>	<b>25.4</b>	<b>15.7</b>	<b>1.1</b>	<b>-13.9</b>



前月後半から野菜相場下落が続いており、販売点数増加はみられるものの、単価が大幅に低下したため不調となった。特にキャベツや土物類の下落幅が大きくなった。気温上昇によりトマトなどのサラダ商材、旬のたけのこも動きはよかった。果物類では、前年との比較で好不調まちまちとなっているが、カットフルーツは引き続き好調となった。輸入果物ではキウイフルーツやバナナを好調にあげる店舗が多かった。

#### 2. 水産DI：-20.0（かなり不調）

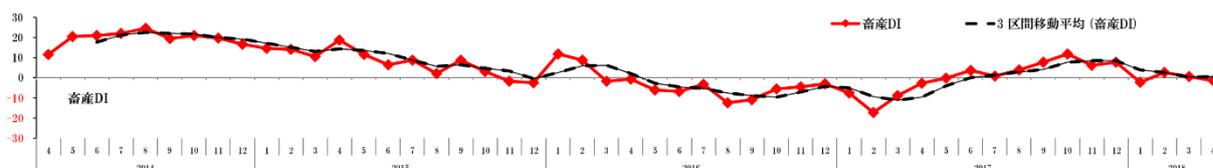
回答構成比 (%)	かなり不調	やや不調	変わらない	やや好調	かなり好調	DI
水産（前月）	18.9	44.7	23.7	11.6	1.1	-17.2
<b>水産（当月）</b>	<b>17.3</b>	<b>53.5</b>	<b>21.6</b>	<b>7.0</b>	<b>0.5</b>	<b>-20.0</b>



品薄や相場高が続くなかで、前年より高い気温により刺身など動きがよかった店舗もみられるが、まぐろ相場高騰や気温の変化への対応に苦慮した店舗も多い。カツオは入荷量が多く販売しやすい環境となったが、アニサキスへの影響により好不調が分かれている。前年好調のうなぎやタコは反動減もみられた。高い気温によりエビ・カニ類は動きが悪い。不調が慢性化していることへの不安が多くみられた。

#### 3. 畜産DI：-1.4（やや不調）

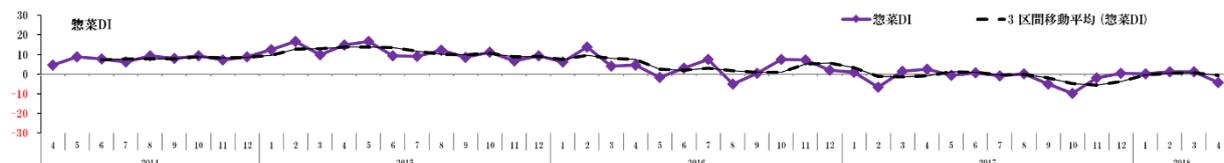
回答構成比 (%)	かなり不調	やや不調	変わらない	やや好調	かなり好調	DI
畜産（前月）	6.9	25.4	32.3	29.6	5.8	0.5
<b>畜産（当月）</b>	<b>4.9</b>	<b>28.6</b>	<b>38.9</b>	<b>22.2</b>	<b>5.4</b>	<b>-1.4</b>



気温の上昇により、牛肉ではステーキや焼肉用が好調となった。豚肉は生姜焼き用、サラダチキンが好調となったものの、単価が下落しており伸び悩んだ。全般的に安価な輸入牛・豚の動きが総じてよく、国産牛・豚については好不調まちまちとなった。鶏肉や加工肉は不調とする店舗が多い。

#### 4. 惣菜DI：-4.1（やや不調）

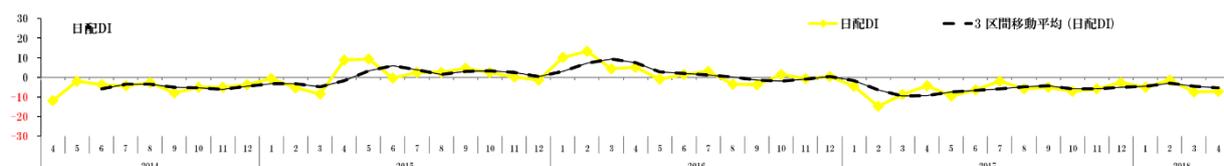
回答構成比 (%)	かなり不調	やや不調	変わらない	やや好調	かなり好調	DI
惣菜（前月）	4.7	24.1	39.8	24.6	6.8	1.2
<b>惣菜（当月）</b>	<b>3.9</b>	<b>33.7</b>	<b>40.3</b>	<b>19.3</b>	<b>2.8</b>	<b>-4.1</b>



例年より桜の開花が早まった地域が多く、当月の花見需要に影響があった店舗が多い。気温上昇により、米飯類や冷惣菜（麺類）の動きはよかった一方、揚げ物類は伸び悩んだ。また旬の食材使った天ぷらなどが引き続き好調となっているが、人手不足で十分に対応できない店舗もみられた。気温の上昇幅が大きかった地域では寿司類が伸び悩んだ。サラダ類は好不調がわかれている。コンビニエンスストアとの競合を指摘するコメントがみられた。

#### 5. 日配DI：-7.2（やや不調）

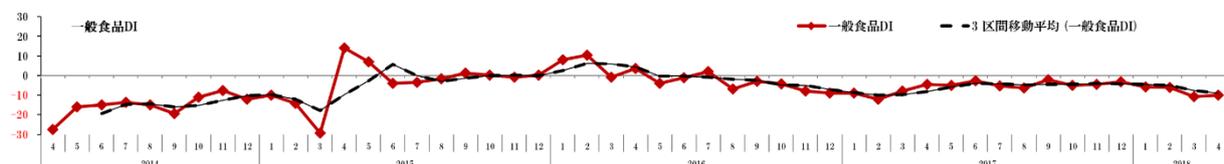
回答構成比 (%)	かなり不調	やや不調	変わらない	やや好調	かなり好調	DI
日配（前月）	7.3	33.0	44.0	13.6	2.1	-7.5
<b>日配（当月）</b>	<b>6.0</b>	<b>37.0</b>	<b>37.5</b>	<b>19.0</b>	<b>0.5</b>	<b>-7.2</b>



気温上昇により牛乳をはじめとする乳製品やアイス、飲料などが好調となった一方で、野菜相場の落ち着きから冷凍野菜、練り物などの和日配は不調となった。報道により特需となっている納豆は引き続き好調となった。パン類や相場安の鶏卵類は伸び悩んだ。気温の変化が大きく、売り場が十分に対応できなかったとのコメントが多くみられた。

#### 6. 一般食品：-10.0（不調）

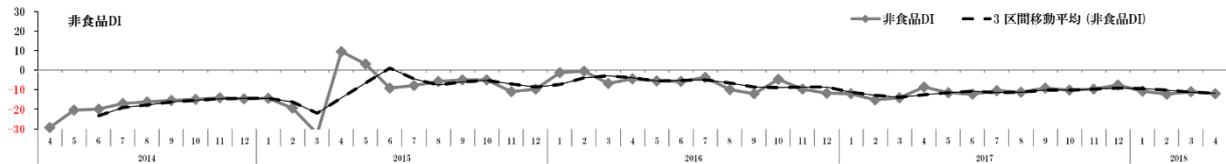
回答構成比 (%)	かなり不調	やや不調	変わらない	やや好調	かなり好調	DI
一般食品（前月）	8.4	39.5	40.5	10.0	1.6	-10.8
<b>一般食品（当月）</b>	<b>8.1</b>	<b>37.3</b>	<b>41.1</b>	<b>13.5</b>	<b>0.0</b>	<b>-10.0</b>



気温の上昇により、飲料や涼味関連商材が好調であり、素麺関連も動きがよかった。野菜相場の落ち着きとともにドレッシング類、焼肉のたれなどの調味料は好調となった。米類は単価が上昇しており引き続き好調となっている。スナック類には前年特需からの反動がみられた。値上げのあったコーヒー類は不調とする店舗が多い。他業態との価格競争が厳しいとの指摘が多くみられた。

## 7. 非食品 DI：-12.0（不調）

回答構成比（％）	かなり不調	やや不調	変わらない	やや好調	かなり好調	DI
非食品（前月）	13.3	34.3	38.7	10.5	3.3	-10.9
非食品（当月）	11.7	38.0	38.5	10.1	1.7	-12.0



気温の上昇により制汗剤や殺虫剤などの季節商材や洗濯洗剤などの一部にやや動きがよかった商材がみられるものの、タバコの落ち込みが続いているほか、ホームセンターやドラッグストアなどの価格競争の影響を大きく、全体的に伸び悩みをみせた。

### カテゴリー別 DI による好不調判断

かなり好調：～ 20      好調：20 ～ 10      やや好調：10 ～ 0  
 やや不調：0 ～ -10      不調：-10 ～ -20      かなり不調：-20～

### 2018年5月調査（4月実績）キーワード TOP3

1. 青果相場安
2. 競争激化による価格競争、来客数減
3. 天候要因（気温上昇・花見時期前倒し）

### スーパーマーケット景気動向調査 集計数

4月実績速報版 203社  
 3月実績確報版 193社

スーパーマーケット景気動向調査に関するお問い合わせ

スーパーマーケット統計事務局 [tokei@super.or.jp](mailto:tokei@super.or.jp)